

ドイツライプチヒ・クリスマス紀行

TBS Bass J.S

私は 2012 年 12 月 21 日から 25 日にかけてドイツを旅行し、バッハの聖地・ライプチヒにて現地のクリスマスを体験してきましたので、以下にご紹介します。



今回の旅のきっかけは、2012 年 7 月に NHK BS で放映された聖トーマス教会聖歌隊合唱団(以下、トマーナ)のマタイ受難曲演奏と、トマーナの生活を紹介したドキュメンタリー番組(*1)でした。聖トーマス教会のクリスマス・ミサの様子や、雪降るクリスマスイヴにトマーナが街中の路上で歌う姿が映像で紹介されて、自分もその様なクリスマスを体験したいと思い立ち、番組を見てから数日のうちに、ネットで聖トーマス教会のイベント(*2)を確認し、衝動的にフライト・ホテル・コンサートチケットの手配をしてしまいました。ライプチヒへのフライトは、羽田発フランクフルト行き深夜便を利用しました。深夜に羽田を出ると現地時間朝にはライプチヒに

着けるため、効率的な日程が組めました。久しぶりに訪れたライプチヒは、旧東独時代の四角い無機質な建物が減り、新しいデパートやショッピングモールが地元の人々や観光客で賑わい、ユーロ危機をまったく感じさせない活気がありました。



2012 年冬のドイツは暖冬とのことでしたが、私が滞在した期間はほとんどが雪か雨、日差しが少なく寒い日々でした。その中であって、クリスマスマーケットはクリスマスオーナメント、ブルスト、シュトーレンを売る店やカルーセル・観覧車が所狭く並び、その賑わいは夜になるほど盛んになり、グリュウワイン(ホットワイン)片手に店を物色しながらそぞろ歩くのは非常に楽しいひと時でした。

街を歩くと、至る所から色々な音楽が聞こえてきます。クリスマスマーケットのステージでの即興演奏や、聖トーマス教会鐘楼や旧市庁舎ステージでの金管四重奏、バンドネオン奏者によるトッカータとフーガの演奏など、音楽が街の一部の様な感じで、飽きることはありません。



最初のコンサートは着いた日の夜です。聖トーマス教会の指定席はあいにくトマーナの歌うステージの真下。トマーナが歌う姿は期待できずがっかりしたもの、プログラムを見ると、最初の曲は Wie soll ich dich empfangen (BWV248/5)。トマーナをライブで聴くのは初めてで、期待を胸に躍らせながら待っていると、いきなり天上から天使の声が舞い降りてきました。

何と素敵な歌声！ 余りの感動に、涙が止まりませんでした。

私が今回の旅で参加したミサ・コンサートは以下の通りです。

1. 12/21 19:30 **キャロルの夜** (Weihnachtsliederabend des thomaner choro**s**)**演奏会形式**
2. 12/23 20:00 **クリスマスオラトリオ** (Weihnachtsoratorium1-3 **部**)**演奏会形式**
3. 12/24 13:30 **クリスマスモテット** (Weihnachtsmotette)**ミサ**
4. 12/24 16:00 **クリスマスイヴ晩課** (Christvesper Heiligabend)**ミサ**
5. 12/25 9:30 **クリスマス礼拝** (Festgottesdienst zum 1. Christtag)**ミサ**

ミサでは、曲の合間に祈祷が入り、オルガンソロもあります。毎回少しずつ曲やアレンジが異なりましたが、主要な演奏曲は以下の通りです。

- Wie soll ich dich empfangen (BWV248/5 「如何にしてわれは汝を迎えまつり」)
- Nun komm, der Heiden Heiland (Schein,BWV36/8 「今こそ来ませ、異邦人の救い主よ」)
- Brich an, du schönes Morgenlicht (BWV248/12 「明けよ、おお、美わしい朝の光よ」)
- Vom Himmel hoch, da komm ich her (Schein 「天のかなたから、私は来ました」)
- Ich steh an deiner Krippen hier (BWV248/59, 賛美歌 107「まぶねのかたえに」)
- Fröhlich soll mein Herze springen (讚美歌 21 253 「踊れ、わが心」)
- Weihnacht (Mauersberger)
- Stille Nacht, heilige Nacht (讚美歌 109 番 「きよしこの夜」)
- du fröhliche (讚美歌 21 260 「いざ歌え、いざ祝え」)

私たちが日本で日頃歌う曲とは歌詞やアレンジが異なることが多く、たとえば“Nun komm, der Heiden Heiland“は、1,3 番が shein のメロディ、2 番が BWV36/8 というメロディでした。



an deiner Krippen hier”は賛美歌 107 番メロディでの会衆賛美もありました。“きよしこの夜”も、トーマス教会カントールのピラー先生による現代的なアレンジでした。トマーナ設立 800 周年記念の委嘱曲演奏(ブレット ディー

ン作曲)もあり、単に伝統を守るだけでなく、新しいものに積極的に取り組む姿勢が感じられました。



ミサに参加される方は、ほとんどが長年通われている地元の方のようで、多くの方がトマーナと一緒に、自然に歌われていました。幸いなことに会衆賛美する譜面は全て配布されるパンフレットに記載しており、初めての参加でも(初見ですが)問題なく歌うことが出来ます。

12/24 16:00 からのミサは圧巻でした。“Stille acht, heilige Nacht“の天井から星が降ってくるようなボーイソプラノに酔いしれた後、“O du fröhliche”がバツハオルガンの Zimbelstern ストップ(*3)



のキラキラとした音色が奏でられ、それに合わせてトマーナと会衆賛美が始まり、ミサのクライマックスを迎えました。その余韻に浸っている間に 2 台のパイプオルガンにより後奏の競演が始まりました。それは非常に荘厳で華々しく歓喜の瞬間で、言葉を失いました。トマーナの歌声が素晴らしかったのは勿論ですが、彼らのタイトなスケジュールにも驚きました。特に 12/24 から 12/25 はコンサートの連続で、13:30~15:00 のモテット、16:00~17:30 のミサ、12/25 0:00~1:30 のミサ、9:30~11:30 のミサと、驚異的なスケジュールをこなしていました。



トーマスカントールのピラー先生の温かい眼差しと共に上級生の献身的な行動には心打たれるものがありました。まだ小学生の下級生はコロコロ動きたい気持ちを抑えきれません。裏方ではそうした彼らを上級生が演奏前に並ばせ、“Shiiii...”と面倒を見る微笑ましい一面もあります。コンサート前後で上級生が彼らの CD や Newsletter を販売し、少しでも彼らの活動の糧にしている様子も垣間見られました。これらは指示されて行動していることではなく、自発的な使命感を持って

なされているように感じました。

ライプチヒの人々の音楽が神への祈りと共にあり、また高い音楽性を持っていることをひしひしと感じた旅でした。

(*1) YouTube に短縮版がアップロードされています。

<http://www.youtube.com/watch?v=50ZKznJJ960> (トマーナのクリスマス、聖トーマス教会でのクリスマスオラトリオ、“O du fröhliche”演奏シーンを含む)

http://www.youtube.com/watch?v=0xml_XD7y3w (トマーナの日常の生活を紹介したビデオ)

(*2) 聖トーマス教会 HP

<http://www.thomaskirche.org/> イベント情報の確認や、チケットの予約も可能。

(*3) Zimbelstern ストップ

別名「シンバルの星」。パイプオルガンで特殊効果を出すストップ。星形の盤が回転し、内部の鐘を鳴らす仕掛け。



左)トーマス教会オルガニスト ウルリヒ・ベーメさん 助手が Zimbelstern ストップを操作 右)ホテルから見た市内、手前は新しいショッピングモール・中央に聖トーマス教会が見える



Weihnachtsoratorium1-3 部を終えて Concerto Vocale Leipzig & Sächsisches Barockorchester